

「市長、出動！まちトーク in 赤松」議事録

令和6年7月3日（水）

赤松公民館

※意見交換の内容は要約しています。
(太字は参加者の意見、細字は市長の応答です。)

【意見交換を行った項目】

- 1 市長のアイデアについて
- 2 水害について
- 3 本庄こども園について
- 4 教員の離職について
- 5 農業施策について
- 6 まちトークの参加者について
- 7 佐賀の本屋について
- 8 防災倉庫について
- 9 子どもの情報リテラシーについて
- 10 観光施策について
- 11 河川清掃について
- 12 佐賀大学周辺の浸水について

【意見交換内容】

1 市長のアイデアについて

すごく楽しかったです。ありがとうございました。こんなにたくさんアイデアがあるんだと思いながら興味を持って聞いていました。こういうアイデアを、どうやって吸収・抽出して練り上げて、実行に移されているのかを教えていただけるとありがたいです。

(市長)

過分なお褒めの言葉を頂きありがとうございます。

まず、私は、佐賀で育って、高校卒業してから東京に20年ほどいまして、戻ってきて2年半、できるだけたくさんの方とお会いをして、いろんなお話を聞くということを心がけてきました。そういった中でのお話が、いろんなアイデアにつながるきっかけになったと思います。

また、私が持つアイデアが、そのまま目に見える形で具体化したというものばかりではありません。

例を挙げますと、先ほどの市政説明の中で申し上げた「まちなか駐車場無料デー」などについては、当初、私は「デジタル技術で全部無人化して、無料処理も自動にできないのか」と職員に言いました。しかし、すぐには難しいですね。

そうしたら、職員が「私が駐車場に張り付きます。やりましょう。」と言って来て実現することができました。

お濠の事前排水につきましても、私は「お濠の水を下げられないのか。」と言いはしたものの、実際には私自身も技術的な知識があるわけではありません。

それを、職員が「よし一緒にやりましょう。」と、納得して、熱い思いで動いてくれました。

試行錯誤しながら、今も定期的に水を入れ替えたり、本当に、目立たないことについてもやってくれています。

そうやって、一緒に作り上げていくものだなと思っています。

実際にいろんな事業を行う中でいろんな課題が見えてきたり、これは良い取組だなということが見えてきたりということは、いろいろございました。

そういう意味で、頭ごなしに指示するのではなくて、「自分はこう思う」ということと「考えていること」を、職員にも、市民の皆さんにも言っていただいて、そして一緒になって作っていくと、良いものが生まれていくと思っています。

今日は、そういう意味でも、皆さんとお話ができるということで、いろんな「気づき」につながるのではないかと思います。ありがとうございます。

今のお話だと、具現化するプロセスは職員の方といろいろ考えたけど、発案のほとんどは市長からだとして理解していいんですね。

(市長)

必ずしもそうでもないです。

例えば、アンバサダー(佐賀市公認観光アンバサダーの愛称)に関する取組の発案は職員です。私は、「応募者いるかな、どうかな」ということを言っていたんですが、職員が「どんどんやりましょう」ということで、こんなに早く100人に達しました。

そのアンバサダーの皆さんも、特典に関係なく、どんどん発信をしてくださって、1か月で200件以上の投稿をしてくださっています。そのように、私も、驚かされることも多いというのが実情です。

2 水害について

玉屋の前や佐嘉神社の前、それから新道の旧県立病院などの低いところは、いつも床上ぐらい浸かるんですね。そういうところに住む人たちは、早く浸からないようになってほしいと思っています。

(市長)

排水対策基本計画という計画を、令和2年に1度、見直しをしたものを、今年度から検討会議を立ち上げまして、前倒しで見直したいと思っております。

気候変動によって、雨の降り方が大きく変わり、大雨の発生頻度もかなり増えています。この基本計画の見直しには、国も県もしっかり入ってもらって、あらゆる関係者ができることを議論したいと思っています。

地形的にも、佐賀市は低平地で、有明海の干満差の影響もあります。佐賀市の内水被害の対策の難しさを、国でも浸水被害のシミュレーションや、どういう対策がどの程度効果があるのかなどのシミュレーションモデルを作ってもらって、それを活用して、どういう対策をするとどれくらいのコストがかかるのかということも考えながら、対策を強化していければなと思っています。

これだけ農業も盛んな佐賀ですので、農業用のクリークも、雨が予想される際は事前に水位を下げるということも考えています。ただ、農業をされている方は、クリークの水位を下げるのはいいけれど、下げた後、雨が実際あまり降らなかったら、農業用水が足らなくなるので大変になります。これは、水利権などの難しい調整はありますが、国にも理解してもらって、「流域治水」ということで、事前にクリークの水を下げたなら、そのときは柔軟に補給を融通してもらえないかと国にもお願いし、ようやく、ご理解が進んできています。これによって、農業者の皆さんの協力も得やすくなるということに繋がります。

佐賀のいろんな既存のものを利用していろいろな対策をしていきたいと思っています。

3 本庄こども園について

本庄小学校の近くに市立のこども園ができました。そこは今、満員ですか。

(市長)

今年の4月に定員135人ということでスタートいたしました。3年間かけて、定員に達するような計画で進めて、段階的に受け入れているところです。

4 教員の離職について

全国的に、小中学校の先生、特に中学校の先生が非常にやめる方が多いと聞きます。佐賀市ではどうなっていますか。

(市長)

今は、教員の不足を講師の先生で補っているような状況で、今後、ますます大きな課題になってくると考えています。

そこで、学校の先生の働き方改革を進めて、負担を軽くするというところで、先ほどの市政の説明で、アプリでの出欠連絡みたいな話をしたところでございます。

また、校務支援システムを今年度新たにデジタルで入れていくということで、デジタルをうまく使って、子どもに向き合う時間を作っていきたいと考えています。

学校の先生は非常に忙しく、いろんなことで、お悩みの部分があると思いますし、先生自身がどんどん学ぶことも増えてきていますので、先生もケアしなきゃいけないということで、デジタ

ルなどの良いものをどんどん活用して、負担軽減につなげたいと考えています。

5 農業施策について

佐賀市は、見ていると休耕田が多いですね。佐賀市は広いので農業に対する支援をしてほしいと思います。

食料自給率は、カロリーベースで今 38%です。ウクライナ戦争で小麦の価格も高騰しました。農業というのは、引継とか跡継ぎなどの問題が大変と言っています。これからは、バイオとか、ドローンで農薬を撒くとか、ぜひ、そういうことで食料自給率を上げるような施策をやってもらいたいと思います。

(市長)

ドローンなどの先端技術を使って、「稼げる農業」ということで、スマート化していくことは、とても大事なことだと思っています。スマート農業を進めていくこと、無人トラクター等の導入を進めるには、コストが非常にかかります。そういったところは、市も導入支援に力を入れているところでございます。

6 まちトークの参加者について

今日の参加者は、若い人が少ないですね。65 歳以上の人が多いです。これはね、日本の政治が進歩しない原因と思っています。本当は若い人がこういう会に来てほしいですね。

(市長)

若い人たちに、「自分が社会を変えられるんだ」、という意識を持ってもらいたいと思っています。市長が同世代だと、そのように思ってもらいやすいと思いますので、そういった話もどんどんして行って、「自分たちでやるんだ」という環境を作っていきたいと思います。

それから、若い世代の声が届きにくいということもあると思います。そういう声にも敏感になって、潜在的なニーズを意識していきたいと思っております。

7 佐賀の本屋について

佐賀県は、明治維新を成し遂げた県です。なのに、本屋さんの数が全国で 1 番少ないです。住民一人当たりの購入、本の購入額も全国最下位です。佐賀市の教科書とか、図書館の蔵書は、100%東京の図書館専門業者がされています。同じように、学校図書館も 100%全て東京の業者から直接納めています。町の本屋が一切タッチできてないのが現状です。ぜひ教育委員会で一考してもらいたいと思っています。

佐賀市は 23 万の人口で、書店は 5 つしかありません。

(市長)

佐賀市の本屋の実情について詳しくご説明頂きました。そういった実情も考えていきたいと思っております。

本との関わり方や、情報の在り方とか、いろんなことが変わってきたと感じています。

今は便利になってインターネットですぐに情報を得られますが、やはりその中でも、本から気づきをもらうこと、本との出会いは大切だと思います。先行きが分からない時代だからこそ、私たちが生きていく中で本に気づかされることがあります。

今後、市立図書館の改修も進めていきますが、市民の皆さんがいろんな形で本に触れることができるように考えていきたいと思っています。

直接の回答になってないかもしれませんが、いろんな形で議論していきたいと思っています。

8 防災倉庫について

佐賀では、震度4以上の地震が全国で1番起こってないのですが、これはいつ来るか分かりません。そういう状況の中に我々は常にいるということを認識しています。

それで、いつ何が起こっても大丈夫という、十分な備蓄を目指していかないといけないと思っていますが、公民館に防災倉庫を設けてありますが狭いです。

については、全市内の小学校の運動場の一角に、ぜひ、防災倉庫を設置していただきたいと思っています。これは少し時間がかかっても結構ですので、ぜひ実現していただきたいです。

(市長)

まちづくり協議会の方には、いつも避難所運営を含め、いろんな場面でご支援いただいております。こちらでは、率先して避難所運営などもやっていたというところで、本当に感謝しているところでございます。

小学校が避難所になったときは、拠点備蓄倉庫から物資を運んでおりますが、避難所を開設する頻度の高い芙蓉校と北川副小学校には、学校の敷地内に防災備蓄倉庫を設置しています。今日、ご意見を頂きました他の小学校への防災備蓄倉庫の設置についても、避難所の状況や災害の頻度、避難者の数など、また、地元のご意向なども含めて、検討していきたいと思っております。

9 情報リテラシーについて

スーパーアプリの話が市長もされていまして、こういうことは一気に進んで行くのだろうと思います。そういう中で問題になっているのは、子どもが罪の意識なく、インターネットに情報を晒して問題になるということがあります。ネット上の犯罪には、警察も動いていますが、なかなか追いつかない。

我々も、高齢者に「どうぞスマホを使って何々してください」ということを言いますが、その辺も考えながら進めていかないといけないのかなと思っています。

(市長)

デジタルの問題、人権の問題ですね。

最近はSNSでのいじめなども言われていて、デジタルに関する教育、リテラシーが非常に大事だと考えています。スーパーアプリなどのデジタル推進の取組は進めています

が、そのような中で新たに生まれてくる課題も、しっかりケアしていきたいと思っています。

最近、さらに AI が、どんどん進化をしているということで、当たり前そこに AI が存在している社会は、もうそんなに遠くない。年々、どんどん進化しているので、そういった時代に我々がどう備えるべきかをしっかりと考えていく必要があります。

そういう意味でも、教育委員会も含めて、新しい議論をしていきたいと思っています。

10 観光施策について

佐賀も観光に前向きになった方がいいと、かねてから申し上げています。

「ひがさす」を東与賀に作られて、それは本当にありがたいと思っていますが、やはり水族館を併設して、有明海の実際生きて動いているものを見せるべきです。せっかく有明海という観光資源を持っているので、この資源を生かした「ひがさす」にすべきだったと思っています。国スポには間に合いませんでしたが、ついでに温泉を掘るようなことも、前向きに検討をお願いしたいと思います。

(市長)

佐賀は、非常に豊かな歴史と自然があるということが魅力です。

それを、地元の皆さんがとても良いと思って幸せに感じておられるということは、全国、海外から訪れる方にも、魅力的な観光資源としてその認知度を高めていけるものと考えています。

京都のように、分かりやすく目立つ観光スポットがあるわけではないですが、いろんな「体験型の観光」を、もっともっと展開していきたいと思っています。

バルーンフェスタでも、これが「競技」であること、そして世界でもトップレベルの選手たちが来て、「いろんな体験もできるよ」という発信に反響があったところです。

そういう「体験型」を意識したいと思っています。

また、神野公園の「神野のお茶屋」は、鍋島直正公が別邸として作られて、佐賀市に大正 12 年に寄贈されたというような歴史があるそうです。そういう佐賀らしさに磨きをかけて、光を当てて、それを「体験型」としていろんな方に楽しんでもらうということに、神野公園のリニューアルの際に力を入れていけたらなと思っています。

インバウンドで海外からの旅行者が過去最多人数来ているという状況もありますし、しっかりと観光を盛り上げたいと思っています。

11 河川清掃について

河川清掃は、例外なく超高齢化しています。そのため、参加者に川に入っていたら危ないという状況です。確実に年齢が上がって、今後、何年続けていけるのだろうかという声、業者にお金を払ってでも河川清掃してもらいたいという声を、多くの方から聞

いています。本当に、もう長く続けられないかもしれない。

お濠の排水とか浸水被害については非常に手を打たれています。ただ、川が乾燥してしまうと、今度ヒシやカヤなど、たくさん茂っていきます。

56年、57年前は、今よりは浸水被害が少なかった。考えてみたら、調整池の代わりに田んぼがいっぱい周りにあったからです。そこに住宅がたくさん建って、膝下まで、川の水が上がってくる。内水被害というか、水草が生い茂って、何度切っても根から刈り取れないので、溜まってしまって水位が上がってしまうという状況です。

この件については、非常に難しいですし、予算の関係もあるということは聞いております。ただ、やっぱり、昔は田んぼが多かった地区が住宅地に変わって、調整池に代わるものがなくなってしまった。そういうことも考慮して、検討していただきたいと思えます。

(市長)

大事なお指摘を頂いたと思っております。

お話にあった「川を愛する週間」は、昭和56年度に始まって44年ほど続いており、長く続けている取組として全国的にも珍しく、皆さんに熱心に実施していただいている、素晴らしい取組だと思っております。

44年前は若手だった方々が高齢化していく中であっても、今なお、年間延べ8万人の方に参加をいただいております、大変ありがたく思っております。

ただ、ご指摘のとおり、いま手を打たないと、これがどんどん難しくなっていくとも思っています。

そうした中で、企業や学校との「パートナー登録」という登録制度を導入しています。このような活動に理解していただき、企業や学校が活動に参加していただくことで、他の現役世代の若い人たちも参加しやすくなるように取り組んでいきたいと考えています。今後も、皆さんにいろいろなお知恵を頂きながら、いろいろ試していきたいなと思っております。

また、水草が繁茂しているという状況も大きな課題だと認識しております。

特に、特定外来種は、非常に繁殖力があるので、国の支援制度を活用しながら、何とか手を打ちたいと、今取り組んでいるところです。しっかり我々も考えていきたいと思っております。

12 佐賀大学周辺の浸水について

佐大通りから、少し入ったところに家があります。佐大通りは、道が高いんです。

でも、横に入った道は、昔からある道で低いので、去年だけでも3回、家の前が水であふれました。将来的に、この道がきれいになるのかという心配がございます。

(市長)

佐大通りの東側のあたりのことですね。北堀端の方が低くなっていますね。

先ほど、災害対策、内水対策の取組をお話しましたが、低くなっているエリアなどで改善すべきいろんな状況があるということを、我々も課題意識として持っております。いろいろなシミュレーションをしてみると、全体の浸水範囲は狭くなるけれども、まだ浸水場所として残ってしまう、そういった場所もございます。今後も、いろんな対策と効果をシミュレーションしながら、また、お話しいただいた場所のことも頭に入れながら、効果的な対策を行っていきたいと考えております。